



# 鳥取市教育センターだより

第1号 平成25年5月10日発行

〒680-0053

鳥取市寺町150番地

TEL 0857-36-6060

FAX 0857-26-3878

E-mail kyo-center@city.tottori.lg.jp

## 春風や 闘志いだきて 丘に立つ

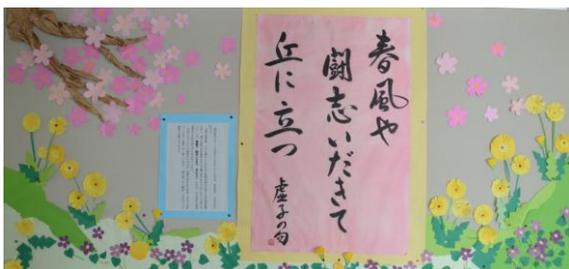
暖かい春の風を感じながら教育センターの玄関に入ると、高浜虚子の有名なこの句が目飛び込んできます。この句は正岡子規没後の『ホトトギス』の中心として、季語や定型にこだわらない河東碧梧桐に対して伝統句を守るために奔走していたときの作だと言われています。小高い丘の上に立ち、そこから広がる景色を見ながら未来を思う。心の中に沸々とわき上がる熱い思いが「夢」や「希望」ではなく、「闘志」という力強い言葉で表現されています。この句が作られた背景を十分に知らなくても、読む人に「勇気」や「エネルギー」を与えてくれます。

さて、鳥取市教育センターが開設されて7年目を迎えました。ここ数年、教育相談・適応指導教室運営を中心とした教育支援・研修企画を三つの柱として取り組んできました。昨年度は745回の相談や過去最高の26名の適応指導教室入級生の支援等を通して、学校不適応解消に向けた取り組みを進めました。しかしながら現状を見ますと、不適応要因の複雑化や継続相談の増加等、関係機関の連携なくしては解決の糸口が見つからないケースも多く見られました。こういった状況は今後も増えるものと予想されます。

そこで、本年度教育センターでは「つながる」をキーワードとした取り組みを進めていきたいと考えています。具体的には地域に出かける巡回相談の充実、学校や保護者と連携した支援体制の充実や「ひびきセミナー」の活用、そして各種人材派遣事業の推進と活動状況の発信、さらには小教研・中教振との連携や厳選した教職員研修の企画、また土曜ワークショップの企画等、今まで以上に積極的な取り組みを行っていききたいと思います。その一環として、センターの取り組みだけでなく、各校の実践や教育情報等も掲載した「鳥取市教育センターだより」を発行したり、ホームページの充実を図っていったりしたいと考えています。是非多くの先生方に活用していただきたいと思っております。

終わりにになりましたが、本年度も鳥取市教育センターの運営にご支援ご協力を賜りますようお願い致します。

所長 保木本 倫久



## 温故創新 研修企画係がお届けします

今年度、研修企画は新たなステージへと移行します。鳥取市教育センターでは、「ふるさとを思い、志をもった子ども」を育成するためには、「教師が元気になること」が何よりも大切だと考えます。そこで、予算も人員も限られた中で取り得るスタイルとして、身近で軽快なフットワークを活かし、所帯は小さいながらも勘所をついた独自色のある取り組みを実践し、いわば「大企業ではない、先端技術をもった中小の町工場」のような存在でありたいと考えています。

### 教職員研修

退職教職員や一般有識者を講師とする教職員研修は、先人が築き上げた教師文化や学校文化、地域文化を伝承していく風土を培うという意味合いがあり、鳥取市として大切にしていきたい研修ですが、昨年度末に実施したアンケートで、多くの先生方から「企画はよいが参加が難しい」というご指摘をいただきました。これに関しては、開催時期や回数を再考するとともに、集合研修方式にとらわれず、リレーインタビューのような形式でお話を伺い、先生方にお届けすることを検討中です。

鳥取市教育委員会主催の教職員研修のうち、当センターが企画する小・中学校講師研修会では、講師の先生方のスキルアップのみならず、自校での研修を通して、それぞれの学校における校内研修（OJT）が活発になることを意図していきたいと考えています。

### 調査・研究

全国学力・学習状況調査などでも明らかなように、鳥取市のみならず全国的な課題である「学ぶ意欲の向上」「活用力の育成」「理数離れの克服」のための教育コンテンツの充実をめざします。

### 研修サポート

小教研と中教振、あるいは大学との橋渡しによる、いくつかの教科のワークショップの企画や、自主的な研修へのより一層の支援を図ってまいります。

教師が子どもたちを集団の中で育てることは不易の真理であり、授業と学級経営の二つが車の両輪です。研修企画係では、それらを支える教師の専門性や人間力、学校の教育力を高めるお手伝いができればと、気持ちを新たにしているところです。

#### お願い

鳥取市教育センターでは、さまざまな教育情報をより広くかつ適時に提供するために、また、先生方の生の声をより多くお聴かせいただくために、メールを積極的に活用したいと考えております。各学校におかれましては、校内でのメール配信が確実に行われるよう、各先生方の業務用パソコンにメールアカウントの設定をお願いいたします。

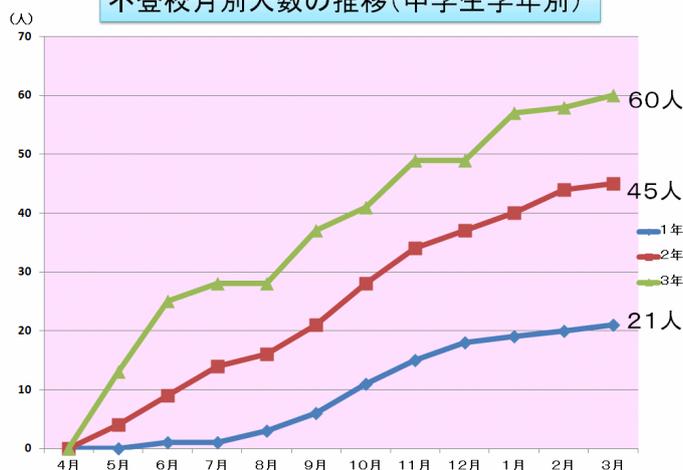
※メールアカウント設定の詳細については、Torikyo-NET ホームページを参照してください。

## 平成24年度 不登校の状況について

### ～中1ギャップについての考察～

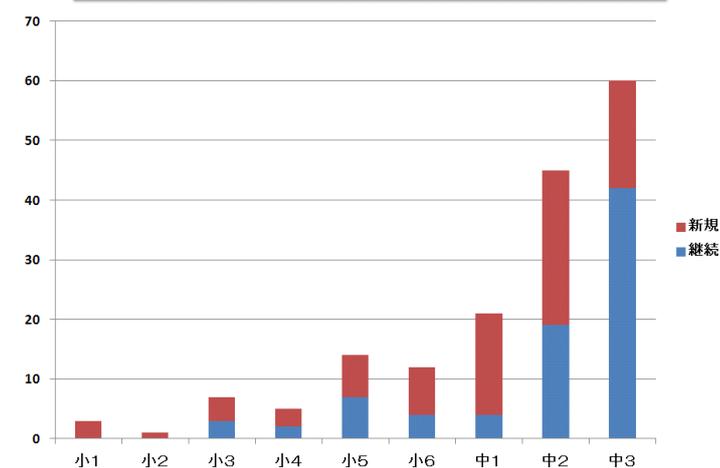
鳥取市の小中学校の長期欠席は257人でした。そのうち、不登校は168人（小学校42人、中学校126人）です。小学校は増加傾向にありますが、中学校はここ数年減少傾向で、今年度は過去最少となりました。中学校の学年別月別推移は右図のとおりです。“中1ギャップ”とは言われますが、小中連携の成果もあり、中1は21名と一番不登校の少ない学年です。また、6年生で不登校だった児童が中学校に入学後、中1で欠席日数が30日未満になった生徒も6名ありました。また、2年、3年の推移と異なり、夏休みまでは不登校が1名のみで推移し、秋以降に徐々に増加という点があります。これはここ数年同じ傾向で、**決して、新しい中学校という環境になっ**

不登校月別人数の推移(中学生学年別)



**た直後から登校できなくなるわけではない**ことがわかります。学校に慣れ、部活動も本格化し行事等も目白押しの時期こそ、一人一人の生徒をしっかりとみていくことが必要です。

小中学校 学年別不登校児童生徒数(新規・継続別)



左図は、学年別の不登校人数を、前年も不登校を青色、H24に初めて不登校を赤色で色分けしたものです。中1は不登校の81%が新規ということになります。この新規の中1不登校生徒の多くは、前述のように、夏休みまではがんばっていますが、秋以降に欠席日数が急増し不登校となる傾向にあります。

もう一点の特徴は、中1を乗り越え、中学校生活に慣れてきたはずの中2、中3に

なって、併せて44人が新規不登校になったということです。きっかけとなる出来事がある場合もありますが、多くは複合的で、学校としてもはっきりとした原因が不明という事案が多いように感じています。居心地の良い魅力ある学校・学級づくりを進めていくことが未然防止につながっていくと考えます。

## 教育相談より ワンポイント！

### 相手を満足させる聴き方のコツ

人に話を聴いてもらうことができるだけで、気持ちがとても楽になるものだという事は、誰もが体験していることだと思います。つまり、聴き上手になるということは、相手が話しやすくなり満足してもらえということです。しかし、いくらこちらが「一生懸命聴いている」と思っている、それが相手に伝わらないかぎり無効になってしまいます。

具体的な会話例を紹介します。

先生 「昨日表情がよくなかったようだけど、どうしたの？」

子ども 「頭痛がしてたんです」

先生 「(うなずいて) ああそうか。頭痛だったの。それはつらかったらうね。」

この先生の応答には3つのエッセンスが含まれています。①(うなずいて) ああそうかという **ことば付きうなずき**、②頭痛だったのという **くり返し**、③それはつらかったらうねという **共感的コメント**です。私たちは「いつから痛かったの?」「頭のどこが?」「どのように痛かったの?」「原因は何?」などと次々と尋ねてしまいがちになり、結局子どもは質問攻めにあつたと思うことになりかねません。これでは子どもが自分の意思で自由に話せたと思えることにはならないのです。いつでも①+②+③をする必要はないですが、時には実践してみたいはいかがでしょうか。

ああ そうなの。辛かったらうね。



## 情報発信コーナー

教育用(生徒用)パソコンの担当が教育センターになりました!!

### 【センター所有の特別支援教育関係DVD】

- ①通常学級でできる特別支援教育の工夫 (H20. 8. 5)  
鳥取大学地域学部教授 小枝 達也 先生
- ②通常学級に在籍する気になる子どもへの気づきと支援 (H22. 5. 18)  
鳥取大学大学院医学系研究科臨床心理学講座教授 井上 雅彦 先生
- ③学校生活で気になる子どもの見方と理解 (H23. 8. 6)  
川崎医療福祉大学特任講師 重松 孝治 先生
- ④音読に困難がある子どもの気づきと支援 (H. 23. 10. 5)  
鳥取大学地域学部教授 小枝 達也 先生

このほかにも、退職された校長先生方を講師とした学級経営・教師力向上研修等のDVDが多数あります。教育センターは土・日・祝祭日でも事前に連絡頂ければ、DVDの貸出や研修室の利用が可能です。より多くの先生方の利用をお待ちしています。

今まで発行していた「研修企画たより」に、教育相談情報や学校不適應の支援方策等を盛り込み、より充実した形で「鳥取市教育センターだより」として発行することとしました。基本的には奇数月を発行月としますが、随時、先生方に有益な情報も発信していきたいと思ひます。また、先生方からの貴重なご意見も取り入れながら、センター運営を充実させたいと思ひます。研修の要望やたよりの感想など、メールでお寄せいただければありがたいです。